

わたしは、へりくだる霊の人と共に

イザヤ 57 : 14 - 21



司祭 ヨハネ 井田 泉

2015年7月19日
聖霊降臨後第8主日

奈良基督教会にて

今日朗読された旧約聖書・イザヤ書第 57 章 14 節以下に、深い悲しみと失意に沈んでいる人が見え隠れしています。

この人は—あるいは個人ではなく集団なのかもしれませんが—何か過ちを犯し、神さまに背いて頑なになっていた人です。その人が今は、自分の過ちを悟り、うずくまって動くこともできない状態です。そういうときこそ、神さまに立ち帰るべきなのですが、この人は、神さまはもう自分を受け入れてはくさらないに違いないと思いつんでいます。どうしたらよいのでしょうか。

今日大切に聞きたいことは、ここで、この人のために神さまご自身が姿を現し、この人を愛のまなざしをもって見つめておられる、ということです。

呼びかけが聞こえます。

「土を盛り上げて道を備えよ。わたしの民の道からつまずきとなる物を除け。」 57:14

主なる神が呼びかけられたのです。

それを受けて、だれかが語ります。預言者でしょうか。

「高く、あがめられて、永遠にいましその名を聖と唱えられる方がこう言われる。」 57:15

ここから神ご自身が発言されます。神が語られる。それをわたしたちは聞く。これがもっとも大切なことです。

「わたしは……」と神は語り出されます。数えてみると 4 回

「わたしは」が繰り返されます。何と言われるのでしょうか。

「わたしは、高く、聖なる所に住み
打ち砕かれて、へりくだる霊の人と共にあり
へりくだる霊の人に命を得させ
打ち砕かれた心の人に命を得させる。」 57:15

「わたしは」と自ら語りだされた神は、ここでご自身について三つのことを語られます。

「わたしは、高く、聖なる所に住み」

神はわたしたちとは違う別世界に住んでおられる。地上の混乱、悪、争いとはまったく隔たった、高く聖なる所に住んでいるとおっしゃるのです。これが第一のこと。

そのことを少しでもわたしたちが感じたり思いめぐらしたりできるように、わたしたちの礼拝堂は区切りを設けています。この丸い柱のところ、会衆席から3段上からをキャンセル、聖所と呼んでいます。ここに上がる時は、慎みをもって祈りを深くするので。

しかし第二に、神はここでまったく違うことを言われます。

「(わたしは) 打ち砕かれて、へりくだる霊の人と共にあり」

人間とは隔離した、高く、聖なる所に住まわれる神は、打ち砕かれて、へりくだる霊の人と共にある、と言われます。

いと高きところにおられるはずの神が、実は大きな打撃を受けて深く傷ついた人と共におられるというのです。

ここで今日の冒頭に言いましたあの人のことを、神が心にか
け、高いところから見つめられることを知ります。そればかり
ではなく、この打ち砕かれた、悲しみと失意の人の傍らに来て
おられます。神はこの人と一緒にいようとされるのです。

ここで言われている「へりくだる霊の人」というのは、一般
的に言って腰の低い人、謙遜な人、ということではありません。
打ち砕かれた人です。自分ではどうすることもできない打撃を
受けて、誇りも自信も自負も失ってしまった。存在する価値も
自分ではないと思って魂が地に伏しているその人の所に神が来
られて、「わたしがあなたと一緒にいる」と言われます。

そして第三。

「(わたしは) へりくだる霊の人に命を得させ
打ち砕かれた心の人に命を得させる。」 57:15

高く聖なる所から下って、打ち砕かれた魂のその人とともに
おられる神は、その人に命を得させる、と言われます。元気に
なってほしい。もう一度、しっかり生きてほしい。今度は傲慢
や罪や負い目から解放されて、生きてほしい。それが神の願い
です。そのために神はこの人に命を得させる。

しかしその人は責めを感じています。自分で自分を責め、ま
た神に自分が責められていると感じて、自分の悲しみと失意と
負い目の世界に閉じこもってしまって動けません。

そこで再び神は、語られます。

「わたしは、とこしえに責めるものではない。永遠に怒りを燃やすものでもない。霊がわたしの前で弱り果てることがないように

わたしの造った命ある者が。」 57:16

自分は永遠に責められるとその人は思いこんでいる。しかし違うのです。

神はその人の霊が弱り果てて滅びてしまわないかと心配されます。その人も、「わたしの造った命ある者」、神が造られた、神さまにとって大切な存在なのです

**「貪欲な彼の罪をわたしは怒り
彼を打ち、怒って姿を隠した。彼は背き続け、心のままに歩んだ。」 57:17**

たしかに神は貪欲な彼を怒られました。彼を打ち、怒って神はご自身の姿を隠された。

神が姿を隠してしまわれるということがどんなに恐ろしいことかを彼は知らず、彼は背き続けた。自分の心のままに神から離れて勝手な道を歩んだ。そのことを神は知っておられ、見ておられました。

しかし何かが起こりました。背き続けた彼の道は破綻しました。背き続けた結果は、自分のすべての崩壊でした。砕かれ、地に伏して、神に帰ることもできません。

しかしそれが彼の終わりではありません。その彼の歩んだ道、また今の現実を、神が憐れみをもって見つめておられます。

「わたしは彼の道を見た。わたしは彼をいやし、休ませ
慰めをもって彼を回復させよう。」 57:18

自分では回復できない。自分では休みも慰めも得ることもできないその彼を、神が癒し、休ませ、慰めをもって回復させようと言われます。

神のうちに彼のために憐れみが沸き立っています。神はすべてを知った上で彼を愛のまなざしをもって見つめ、かれを回復させようと決意し、そう語られます。

悔い嘆く人に向かって、神の愛が燃えています。

「民のうちの嘆く人々のために
わたしは唇の実りを創造し、与えよう。平和、平和、遠くに
いる者にも近くに
いる者にも。わたしは彼をいやす、と主は言われる。」 57:18-19

「唇の実り」とはなんでしょうか。それはその人の唇から溢れ出る祈り、感謝と賛美です。自分では祈ることも感謝することも賛美することもできなくなった彼の唇のために、祈りと感謝と賛美を神が創造する、造り出して与えると言われます。あなたの唇から祈りと感謝と賛美があふれ出すように、わたしがすると言われます。

今日の箇所に語られていたその人の姿。そこにわたしもいる
かもしれません。

わたしたちもまた過ちを犯し、負い目に苦しみ、みずから神のもとに帰ることができないことがあるかもしれません。

しかし神が、わたしたちのために憐れみを沸き立たせておられます。高き神、聖なる神が、砕かれてへりくだる霊の人となったわたしたちのところに来てくださいます。わたしたちのうずくまる場所を、聖なる場所、安らぎの場所、慰めの場所、癒しの場所としてくださいます。

そのためにイエス・キリストが来られました。遠い昔、2000数百年前に無名の預言者が語ったことを確かな事実とするために、イエス・キリストが来られました。

神の子が人の子となって地上においでになりました。

イエス・キリストは天から地に降り、砕かれた霊の人ともにおられます。うずくまっている人に命を得させ、回復させてくださいます。

主なる神さま、どうかわたしたちを頑なさから解放してください。高ぶった思いからも、また反対にどうすることもできない悲しみからも解放してください。打ち砕かれたへりくだる霊の人としてください。砕かれたときこそ、傍らに立って癒し、力づけてくださるあなたの臨在と救いのわざを経験させてください。閉ざされたわたしたちの唇に、感謝と賛美の祈りをお与えください。主イエス・キリストによってお願いいたします。
アーメン